## 別紙

## 1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均 (全国を50とする)

		国語	数学	理科	社会	英語	全体
1年	目標値 偏差値平均						
	結果 偏差値平均	49.7	49.2	49.7	50.9	47.6	49.3
2年	目標値 偏差値平均						
	結果 偏差値平均	50.1	46.3	49.7	47.8	47.6	48.2
3年	目標値 偏差値平均						
	結果 偏差値平均	49.1	48.3	49.5	50.2	49.3	49.2
全体	目標値 偏差値平均						
± 14*	結果 偏差値平均	49.6	47.9	49.7	49.6	48.1	48.9

## ②全国学力·学習状況調査 正答率平均 (第3学年対象)

٦.		, o pp. ,		
ĺ	教科	国語	数学	
I	目標値 (対県比)			
	結果 (対県比)	65 (100)	52 (91)	

# 令和3年度 学習分析事業 改善計画 三原市立本郷中学校

# 2. 調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】(NRTをうけて)

- ●3年生では、国語の「読むこと」(物語文の心情の読み取りなど)が全国比89、数 ●国語は、全体の平均が全国比100%であり、おおむね学力は身に付いている。ただ、 学の「資料の活用」が全国比72と低いのが課題である。 物語文において、文脈の中における語句の意味の理解の設問が全国比76、登場人物
- ●2年生では、数学の「資料の活用」が全国比68と低いのが課題である。
- ●1年生では、国語の「読むこと」が全国比84、数学の「データの活用」が全国比79と低いのが課題である。

【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)

- ●国語は、全体の平均が全国比100%であり、おおむね学力は身に付いている。ただ、物語文において、文脈の中における語句の意味の理解の設問が全国比76、登場人物の心情や行動に注意して内容を読み理解する設問が全国比84と低いのが課題である。
- ●数学は、全体の平均が全国比91%と低い。特に、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する設問が全国比39と低いのが課題である。

# 3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を, どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
て解かせるなど、「読むこと」を向上させる取組を行う。 〇全学級の国語科の授業で、辞書を用いて、語句の定義を確認する取組を行う。 〇全教諭が、「データ・資料の読み取り」を授業の中(定期試験の問題を含む)で取り入れる。	態把握と改善計画の立案を行う。 ②全体研修による目指す授業(課題解決学習などを含めた授業スタイル「本郷中スタンダード」)の共有を行い、年間一人1回以上の授業研究を通して、問いの設定に重点をおいて確認する。 ③試験の問題文や言葉の定義を確認する授業など、「読むこと」を向上させる取組の交流 ④各定期試験の問題等における「データ・資料の活用」を向上させる取組を交流し、類似問題作成や次の定期試験の問題作成に生かす。 ⑤各教科で、類似問題を用いて、12月末までに重点課題を意識した授業を実施する。 ⑥基礎基本の定着のための定期的な小テストや、課題(家庭学習等)の設定をする。	⑥年間を通して	○今年度のNRTテストの「データ・ 資料の活用」に関する問題を解かせ、正答率を向上させる。
	③学期1回以上の個別面談を行う。	①6月 ②6月 ③学期に1回 ④7月~3月	〇12月のQ-UICおける三次支援・ 二次支援生徒の減少